

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

## － 「地域イノベーション・新規事業創出」をテーマに共同研究を実施 － 駐車場の需給バランスを推定し効率的なオペレーションを実施する AI プロトタイプモデルを開発

慶應義塾大学 SFC 研究所（神奈川県藤沢市、所長 飯盛義徳）矢作尚久研究室と日本駐車場開発株式会社※1(大阪府大阪市、代表取締役社長 巽 一久)は、産学連携活動によるアントレプレナー育成研究の第一弾として「駐車場運営を効率化する AI プロトタイプモデル」を開発しました。

第二弾として、日本駐車場開発株式会社のグループ企業が管理運営する東京ドーム約 170 個分の広範な那須地域の拠点を軸に、地域活性化を目的とした事業構想力を身につけるプログラムを実施します。

本共同研究は、社会実装をスコープにして、大学周辺の街づくりや地域へ高い産業波及効果を期待できる各種事業開発を、「デジタル・AI」「ヘルスケア」「シェアリング」「飲食」「観光」「住宅」「駐車場運営」「宿泊」「各種不動産サービス」「環境・エネルギー」「物流」「緑化事業」といった幅広い分野で進めていきます。

### 第一弾「駐車場運営を効率化する AI モデル」

「月極駐車場の過剰供給は街の空洞化につながる一方で、月極駐車場の供給データは分散し、把握・管理等の仕組みは整備されていない」という課題に対して、神奈川県下における地理情報から月極駐車場の有無を推定し、自動的に全ての月極駐車場の情報を網羅するデータベースを構築、需給情報と組み合わせることで機械学習を用いて最適解を導くプロトタイプモデル（以下、本モデル）を開発しました。

本モデルは、SFC 研究所の主導により、駐車場の流入・流出と稼働状況などの需給バランスを、光学センサリングを用いて評価するプログラムを設計し、日本駐車場開発株式会社でのテスト導入・実証を経て、実際の市場動向と対照して効率的かつ理想的なオペレーションに役立て、マンスリーリース（月極め）、トールパーキング（時間貸し）、カーシェアリングといったさまざまな駐車場の活用方法・事業がある中、対象地域の事業ポテンシャル、拡大すべき業態、そして最適な事業バランスといった複合的な情報を得ることを目的としております。

本モデルをベースに、駐車場以外の交通や商店街や娯楽施設に対象エリアを拡大することで、日本の国土全体の 20%が所有者不明になっている社会課題の解決に役立つ新たな発見が見込まれます。

### 第二弾「地域活性化を目的とした事業構想力開発プログラム」

本プログラムでは、さまざまなステークホルダーの参画を募り、フィールドワークを通じて、人材や知の供給源である大学と連携した街づくりを目指し、地域独自の課題を抽出、解決に導く事業を構想して社会実装につなげていきます。

日本駐車場開発株式会社のグループ企業が管理運営している東京ドーム約 170 個分の広範な那須地域の拠点を軸にフィールドワークを行い、関係人口創出、地域社会の雇用創出、経済の活性化等に資する研究プロジェクトを創出します。



## ※1 会社概要

商号 : 日本駐車場開発株式会社  
代表者 : 代表取締役社長 巽 一久  
所在地 : 〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町2番4号 大阪富国生命ビル  
設立 : 1991年(平成3年)12月  
事業内容 : 駐車場に関する総合コンサルティング  
資本金 : 6億9千9百万円(2021年7月末)  
URL : <https://www.n-p-d.co.jp/>

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

---

### 【本件についてのお問合せ先】

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授 矢作 尚久

E-mail: [yahaginlab@gmail.com](mailto:yahaginlab@gmail.com)

### 【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)